

腹水中に出現した平滑筋様細胞（LAM 細胞）の検討

県西部浜松医療センター臨床検査技術科¹⁾，臨床病理科²⁾，

○川根一哲(CT)¹⁾，池野秀樹(CT)¹⁾，中村孝始(CT)¹⁾，浅川勝美(CT)¹⁾，
高田宏美(CT)¹⁾，小澤享史(MD)²⁾

【はじめに】リンパ脈管筋腫症（lymphangiomyomatosis；LAM）は、妊娠可能な女性に発生する比較的希な疾患である。今回我々は乳糜腹水・骨盤部リンパ節腫脹を主訴とし、腹水中に LAM 細胞が出現した症例を経験したので細胞学的検討を中心に報告する。

【症例】患者：28 歳 女性、会社員 主訴：腹部膨満感

現病歴：某年 7 月頃より腹部膨満感を認め、同年 8 月 5 日近医受診腹水の存在を指摘され 8 月 6 日当院受診。精査にて乳糜腹水、左乳糜胸水および骨盤内腫瘤影を指摘された。

入院時検査所見：血算、血液生化学検査では異常を認めないが、腫瘍マーカーでは CA125 の上昇を認めた。腹水細胞診では乳糜腹水であり、多数の中皮細胞様集塊の剥離を認めた。

【組織所見】骨盤内リンパ節生検所見は、リンパ節内にやや未熟で肥大した平滑筋様細胞が集簇し、結節性でびまん性に増殖している。免疫染色で α -SMA、HHF35 陽性 HMB45 一部陽性 LMA と診断。

【細胞所見】腹水中の細胞を見直すと、中皮細胞と非常に類似性を示す LAM 細胞の剥離が認められた。これらの細胞は免疫染色 α -SMA 陽性であり、Calretinin は陰性で明らかに中皮細胞と異なる染色性を示した。

【考察】LAM 細胞と中皮細胞の鑑別のため、細胞・免疫染色・電顕所見の比較検討を行い、若干の知見を得たので報告する。